

熊谷元一（1909～2010）のあゆみ

会地村に生まれる。



お田植え

絵が好きで、教員をしながら「コドモノクニ」などの雑誌に絵を投稿し、掲載もされていました。画家の武井武雄から手紙で指導を受けるようになります。

1909

1930

1934

あるとき元一は、武井武雄にかかしの写真を撮るように頼まれます。元一の撮ったかかしの写真を武井武雄は大変高く評価しました。カメラを手にした元一は写真で村誌をつくりたいと思い、村の様子を撮影を始めます。



1934(S9)年 会地村

1938

1939

村の生活を記録した写真集を自作し、朝日新聞社に送ると高く評価され、朝日新聞社から写真集「会地村」が出版されました。元一 28才の時でした。



1937(S12)年 駒場 馬耕

拓務省のカメラマンとして満州へ渡り青少年義勇隊などを撮影します。この時期の写真はほとんど残っていません。



1943(S18)年 満州

1945

終戦を前に会地村へ帰り、智里東国民学校の教員となり、その後、会地小学校の教員となります。



1953(S28)年 会地小学校 算数の時間

1953

一年生の担任になった元一はクラスを一年間撮影。岩波写真文庫「一年生」として出版しました。

毎日写真賞



— 写真集巻頭より

1955

子どもたちのみならず、農作業や商店街の営み、祭など村の暮らしの様子も多く撮影しました。



1963(S38) 伍和

1966

定年退職後は東京都清瀬市で暮らしました。たびたび阿智村を訪れ、変わりゆく村の風景や人々の暮らしを写真におさめました。



1971(S46) 阿智村 ゴルフボール工場

1997



熊谷元一

1970～2000年代にかけて、30冊を超える絵本や写真集が発刊されました。岩波書店「日本の写真家全集 40」の一冊にも取り上げられています。



お正月・囲炉裏の横でカルタ取り 1961(S36)年 阿智村会地

会地村（現在阿智村）出身のアマチュア写真家「熊谷元一」は子どもたちや暮らしを1937年から約70年間にわたり撮影しました。阿智村はこのフィルムを約5万点所蔵しています。多くの人に写真を見てもらえるように昼神温泉郷に熊谷元一写真童画館を設置し、熊谷元一写真賞コンクールなどに取り組んできました。

このたび、阿智村が阿智村全村博物館構想企画委員会に対して「農村記録写真の村」について諮問を行いました。これまで農村記録写真の取り組みを中心的に担ってきた熊谷元一写真保存会の世代交代が進む中、村の宝である熊谷元一写真を今後どのように活かしていけるのかを検討するためです。

企画委員会は「農村記録写真の村・熊谷元一写真あり方検討委員会」を設置し半年間検討、10月に村へ中間答申を提出しました。

検討委員会では検討内容を村民の皆さんに広く知っていただき、元一記録写真の今後についても考えていただきたいと願い、この「まなざし」を発行することとしました。

まなざし Vol.1 2023.12

— 5万点のフィルムが語る阿智村 —

名誉
村民

くまがい もといち
熊谷元一(1909-2010年)



写真家・童画家。1909 (M42) 年、会地村上町生まれ。1936 (S11) 年にカメラを購入して以来、阿智村・飯田下伊那地域をアマチュアカメラマンとして 70 年にわたり撮影してきました。村の何気ない日常や子どもをたくさん撮影しました。

阿智村は 1996(H8) 年、農村記録写真の村宣言をしました。写真を切り口に地域や生活を見つめることで、より豊かな農村文化のある村をめざしています。

中間答申

- 現状** 熊谷元一と交流のあった人が高齢化し、業績や写真を知らない村民が増えている。一方、専門家の中では自分の暮らす地域を被写体とした熊谷元一写真の評価は高い。
- テーマ** 50年、100年先の地域の未来を見据えて、活用保存を考える。
- 結論**
 - 熊谷元一写真が「村の財産である」と村民が自覚できる取り組みを進めることが重要。そのためには拠点となる施設が必要。
 - 観光の主流が「生活空間体験型」に変わってきていることをふまえ、熊谷元一写真童画館は昼神温泉にこだわらず、温泉郷内外を候補に移転を検討することが妥当。
- 今後** 中間答申では現状と課題を整理し、今後検討すべき内容を整理しました。2024年6月に作成する最終答申に向けて2024年3・4月に飯田市と阿智村で企画展とシンポジウムを行い、成果を検証した上で最終答申を作成します。

検討委員会 委員長に聞きました

元一写真は社会科の教科書以上に地域を勉強する教材だった



委員長 原二三さん

- 〇中間答申をまとめて思うことは**
若い世代の皆さんから新しい視点で様々な意見が出たことに希望を感じています。今後、元一写真をもっと活用してほしいです。村民が元一の記録した阿智村で生きることを誇りとして、後世に元一の業績をつなげていけたらと思います。
- 〇元一写真に対する思いは**
元一のまなざしと写真に写っている人たちがレンズ越しに共鳴している写真は大変貴重です。元一が普段の暮らしに目を向けたのは、この村で生きたからこそ培われたもので、写真家・熊谷元一を生み出した村の歴史を大切にしていきたいです。これからの子どもたちが写真を見ることで、子どもたちにとって阿智村が自分の原点になり得るのではないかと思います。

- 〇元一さんとは家が隣だったと聞きました。思い出は?**
不愛想な隣のおじさん。自転車に乗ってカメラを抱えていつも出掛けていた。地元では「道楽息子」なんて言われてもいました。「時代の波に乗った」と言う人もいるけれど、戦前も戦後も変わらない、芯の通った人だったと思います。

3つのポイント!

もっと知ろう!

もっと活かそう!

熊谷元一写真童画館の今後!

1 フィルム・原画の保存 新しい技術で、よりきれいに写真データとして保存	4 写真の収集 元一写真に限らず各時代の阿智村の写真を集めたり、撮影したりする
2 貸出 写真と童画を貸出できることを広く伝える	5 熊谷元一写真賞コンクール 日常生活を撮った写真を全国からも阿智村からも募集し、時代が写る貴重な記録として保存する
3 研究 写真に写る人や地域の出来事を調べ、解説をつくる	

1 写真の活用方法 元一写真に親しむ楽しい企画を行う 全国で写真展を行い、多くの人に写真を知ってもらう	3 情報発信 インターネットでの情報発信を強化する 外国からの観光客に向けた情報発信にも取り組む
2 学校教育 地域の歴史や昔の暮らしを学ぶ授業で写真を使ったり、ふるさと学習の教材として元一を取り上げる	4 担い手の育成 取り組みを担う新たな人材が育つ組織をつくるとともに、専門知識を持つ人の配置が必要

1 元一館の目的・役割 観光、地域文化、学校教育など各分野における元一館の役割をふまえ、明確なビジョンをつくり上げる必要がある	3 展示内容 写真家・童画家としてのあゆみや、元一の撮影への思い、見る人の理解を深める解説のあり方を検討する
2 元一館の建物 建物としても魅力あるもの考える 展示や写真保管のためにどんな設備が必要か研究する	4 ミュージアムグッズ 若い世代にも響く写真や童画をデザインしたグッズを作成・販売する

細山俊男さん Q 元一にどんな関心がありますか?
元一の公民館活動に興味があります。1950年代、元一は公民館の役員でした。「農村の婦人」という写真集に出てくる写真は公民館で関わっていた婦人会を通してのつながりで撮影していったようです。

Q 元一写真をどう受け止めていますか?
元一写真は記録写真と言われていますが、第三者的に撮るのではなく、自分が



関わりながら実践を記録撮影しています。写真を撮ることを通じて豊かな村にしていくたかった。元一は写真を村の人に見てほしかったのだと思います。

Q 元一写真集を見て、今の課題を考えることもできそう。やってみたいです。
みんなで写真集を見て、地域のことを考える。この取り組みは、まさに元一が望んでいたことだと思います。

検討委員に聞きました

Q 元一館は必要だと思いますか?
写真や絵は置かれている空間や建物も相まって感じられるものがある。阿智村の空気や、人々の暮らしの中にあるミュージアムで見る元一写真だからこそ伝えられるものがあると思います。

Q どんな展示内容があったら良いですか?
元一写真を見るだけでなく、写真の世界観を体験できる展示を目指したいです。

Q 新しく元一館に取り入れたいことは?
ミュージアムグッズです。いろんな美術館に行くのが好きで、いろいろ買っています。ミュージアムグッズが話題になる時代になっています。元一の童画は漫画的要素があって魅力があるし、モノクロ写真もデザイン的に素敵なものが作れると思います。

徐芙美子さん

童画もかわいい

